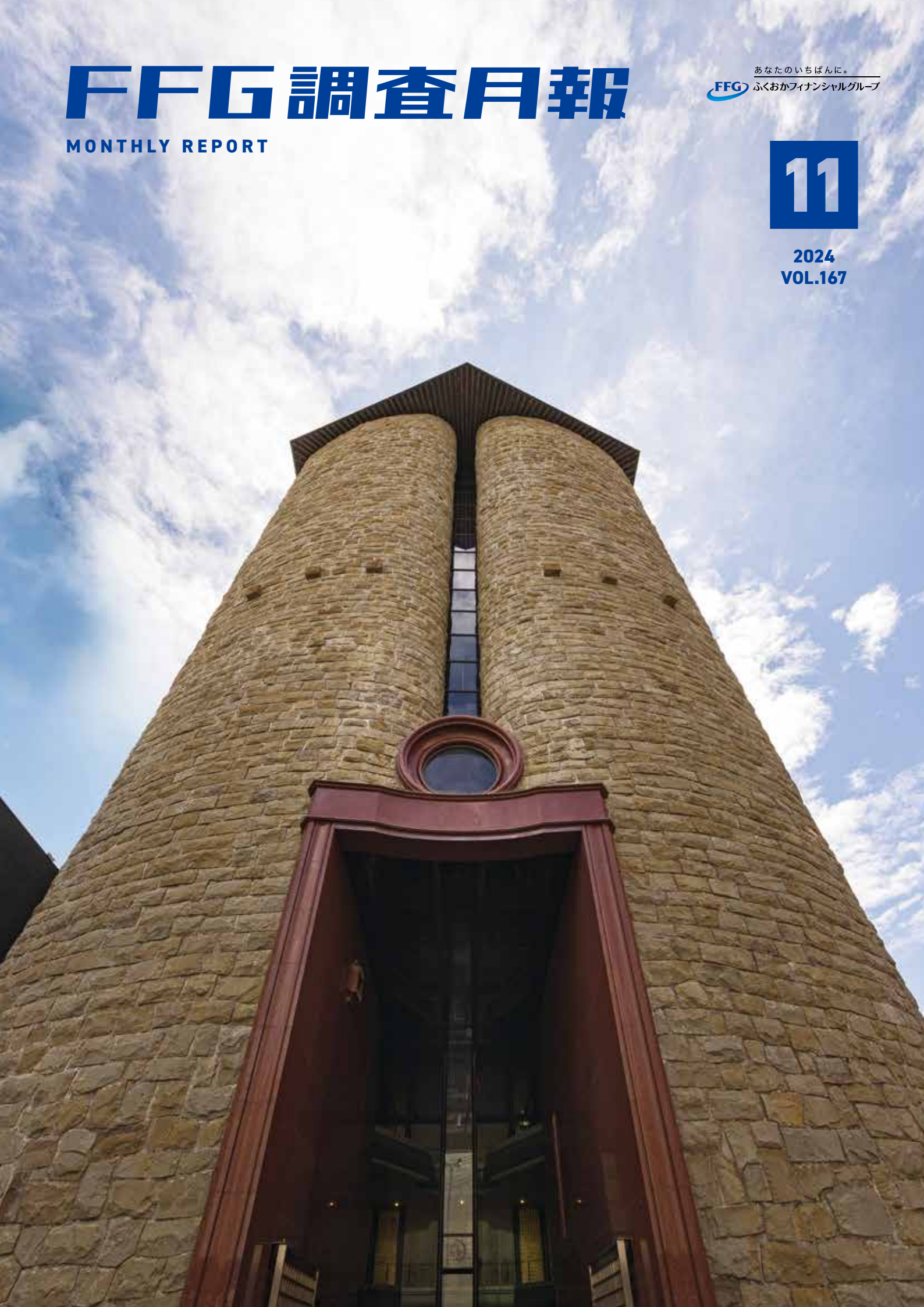
FFG調査月報

MONTHLY REPORT

あなたのいちばんに。
ふくおかフィナンシャルグループ

11

2024
VOL.167



今月の表紙

十八親和銀行

佐世保本店ビル 懐霄館（かいしょうかん）

今月の表紙になった建物をご紹介します!

前川 雄紀（まえかわ・ゆうき）
佐世保県北本部
主任調査役
■趣味：ゴルフ
■休日の過ごし方：テレビで野球観戦

私たちがお答えします!

山本 康一（やまもと・こういち）
佐世保県北本部
■趣味：釣り
■休日の過ごし方：釣りに行っています!

Q どんな建物ですか？

山本　十八親和銀行 佐世保本店ビル（旧親和銀行本店）は、建築家・白井晟一の代表作です。1967年の第1期（本館）、1969年の第2期（本館）、1975年の第3期（懐霄館）にわたって、延べ10年を超える歳月をかけて完成しました。現在も十八親和銀行 佐世保本店営業部の窓口として機能する第1期棟は、黒い円柱の上に白い大理石の塊が載る特徴的な建物です。これは、1955年、白井が誰からも頼まれずに取り組んだ原爆・核を正面から取り上げた美術館構想「原爆堂計画」がその原型となっているといわれています。

右から本館第1期、本館第2期、後ろの高層建築が懐霄館

Q 建築家・白井晟一（しらいせいいち）はどんな人？

前川　白井晟一（1905年～1983年）は、京都市出身です。和風と洋風の建築が融合した独特な作風で、「哲学の建築家」とも称されます。

Q 建物の特徴は？

山本　佐世保本店ビルでは建物全体を通じて楕円のデザインが主要なモチーフとなっています。天井照明、天窓、エレベーターのボタン、鏡など、建物の中にある楕円を探してみてください。また、白井晟一はエンブレムのデザインにも秀でた建築家です。建物には親和銀行専用のエンブレムがデザインされています。白井晟一が細部にまでこだわり抜いた建築デザインは、見るものを惹きつけ、その美しさと深遠さに感動を覚えます。

懐霄館のエンブレム

装飾の施された丸鏡

楕円の夜間金庫

ラテン語のメッセージ

曲線が美しい螺旋階段に注目

山本　本館のお客さま用階段は、下から上まで途切れることのない継ぎ目のない手すりになっています。

ゆるやかな曲線が続く螺旋階段

レリーフを移設

前川　親和銀行の前身・旧佐世保商業銀行本店表通りに使用されていた岸崎夜光（きしざきやこう）のレリーフは白井晟一の意向により、本館4階に移設されています。

4階の屋外レリーフ

Q 懐霄館（かいしょうかん）について教えてください。

山本　高さ約40m、11階建て、まるでヨーロッパの教会のような巨大な塔です。1975年の竣工当時はコンピューターを中心とした電算事務センターの役割を担っていました。外壁工事にあたっては1日1段、職人たちの手によって一つ一つ8カ月の時間を要して積み上げられたといわれています。

11階 佐世保港を見渡せる展望室。船の操舵室を模した佐世保らしい意匠

心地よい空間のサロン。竣工時は美術品が飾られていた

壁ではなく、金属のボールチェーンを吊り下げて空間を区切る手法

9階ホール。照明は円形のデザインを採用

エントランスホールには「泉」を設置。波紋のような絨毯も特徴的

Q 建物の見学はできますか？

前川　アーケード街から外観をご覧いただくことや、佐世保本店営業部にお立ち寄りいただくことは可能です。しかし、現役の建物である為、佐世保本店の内部や懐霄館は一般公開しておりません。その代わり、佐世保本店営業部のATMコーナーの隣に展示スペース「白井晟一と親和銀行」を開設しています。本スペースでは、普段見ることのできない建物内部の写真も展示しています。入場無料・自由に見学できます。本展示スペースを通じて、佐世保と共に歩んできた佐世保本店を身近に感じていただければと思います。

展示スペース「白井晟一と親和銀行」

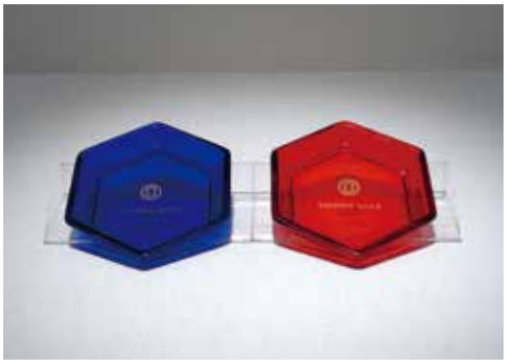
住所：長崎県佐世保市島瀬町10-12
開放時間：平日7:00～23:00、土日祝8:00～21:00
（ATMコーナーと同じ）

十八親和 アートギャラリー
Juhachi Shinwa Art Gallery

学芸員便り

特別寄稿

白井晟一による親和銀行建築



大波止支店建設時に白井晟一がデザインしたとされる灰皿

建築家・白井晟一

佐世保市の中心部に位置する十八親和銀行佐世保本店（旧親和銀行本店）は建築家・白井晟一の代表作のひとつとして知られています。

白井の建築家としての歩みは、日本画家であった義兄、近藤浩一路（こんどうこういちろ）の自宅兼アトリエ（※1）の設計打ち合わせを担当したことに始まります。その後、個人住宅から善照寺（ぜんしょうじ）本堂（東京都）、秋ノ宮村役場（秋田県）、渋谷区立松濤（しょうとう）美術館（東京都）などの公共建築まで幅広く手掛けていきます。またその一方で、書籍装丁の仕事や顧之昏元（こしこんげん）と号した書、エッセイなど、独自の美意識に基づいた多彩な作品を数多く残しています。

当行の建築では、1963年に東京支店（旧親和銀行東京支店、現存せず）（※2）と大波止支店（長崎市）、3期10年に及ぶ大工事を経て1975年に完成した佐世保本店・懐霄館（旧親和銀行本店）が白井の設計により建設されました。この当行と白井の縁は、広い交友関係を持つ白井の義兄である近藤が、旧親和銀行の北村徳太郎（きたむらとくたろう）会長に白井を紹介したことに始まったと言われています。

（※1）後に所有者が変わり、「河村邸」として紹介される建物
（※2）銀座に建設された。所有者が変わった後、2006年に解体

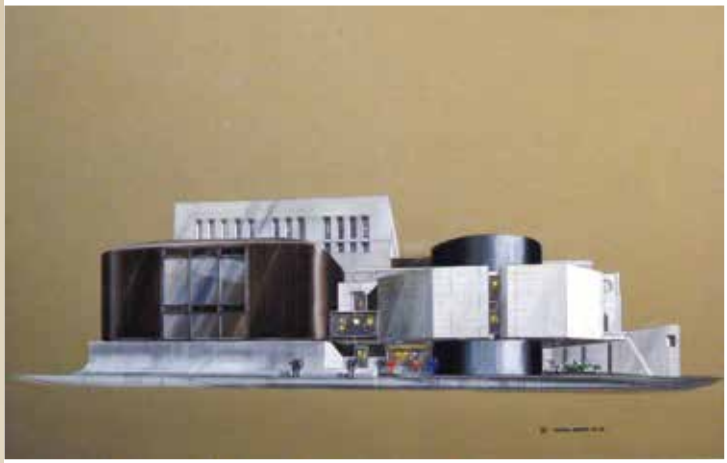
アートギャラリー所蔵 白井晟一関連作品

当館が所蔵する美術品の多くは昭和期に収蔵され、懐霄館の展示室などで公開されてきたものです。その中で

近藤浩一路《渓の音》　当館での展示風景

1.2.3.昨年開催した特別企画展「白井晟一と親和銀行～邂逅する作品たち」展示風景。2.3.の展示作品は全て白井晟一建築研究所（アトリエNo.5）所蔵 ／
4.白井晟一の書3点（当館所蔵）／**5.6.**北村徳太郎会長の書（当館所蔵）

白井晟一関連として挙げられるものには、《本店完成図》（作画：竹中工務店）、《大波止支店設計図》、白井晟一の書《澄霊》、近藤浩一路の大作《渓の音》などがあります。この中で《本店完成図》（左絵参照）を見てみると、画面右端に第1期（本館）、左端に第2期（本館）が描かれていますが、それらの背後に聳える第3期の懐霄館はまだ描かれていません。そして本図の右端は現在、ATMコーナーですが、当時は車の駐車スペースであったことがわかります。



親和銀行本店完成図　作画：竹中工務店

昨年に開催した特別展「白井晟一と親和銀行～邂逅する作品たち」では、これら当行の所蔵品に加えて、白井晟一建築研究所（アトリエNo.5）からお借りした、銀行名のレタリング原画や原爆堂計画の初期スケッチなど貴重な作品資料を展示、公開しました。

白井による一連の親和銀行建築と当館に残る美術品の歴史を紐解くと、半世紀の時を越えて伝わる奇しき巡りあわせが見えてきます。

（十八親和アートギャラリー学芸員　藤松 綾子）

十八親和アートギャラリー

鑑賞無料

［開館時間］10:00～16:00（入館は15:30まで）
［休　館　日］日・月・祝日、年末年始（12/30～1/4）
※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F
TEL0956-23-4856
西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分
JR佐世保駅から徒歩約20分

懐かしい情景を探して

Looking for a nostalgic scene

「匂い」は覚えている

▲正面奥に硫黄山

▲遠くに猟師岳

▲寒の地獄温泉

▲雲海の根子岳と阿蘇

「やまなみハイウェイ（※）」は1964年6月に開通し、今年60周年を迎えた。阿蘇市一の宮から九重の山を越えて由布市水分峠（みずわけ）までの52㎞の区間には農地や牧草地が果てしなく広がり、くじゅう連山の新緑や紅葉を満喫できる。

当時は「ハイウェイ」というロマンチックな言葉の響きに、大人も子どももまだ見ぬ「やまなみ」へ思いを巡らせたものだ。冷房のない小型車の三角窓を全開にして高原を走り抜ける爽快感、牧ノ戸峠（まきのと）では外気が急に冷えて車内の全員が驚いた。温泉蒸気が立ち昇る長者原（ちょうじゃばる）が近づくにつれ強くなる硫黄臭を、今でも通過するたび無意識に探してしまう。

まだ未舗装の悪路が残っていたあの頃、上下左右に大きく揺られながら走るやまなみへの道中もまた、忘れられない思い出だ。

※正式名称「別府阿蘇有料道路」通行料金は全線で1,850円であったが、1994年6月から無料に

（文・阿井川 圭）

▲長者原ビジターセンター

◉長者原ビジターセンター

住所：
大分県玖珠郡
九重町田野
255-33

FFG調査月報

CONTENTS

11

2024 VOL.167

読者アンケートのお願い

今後のより良い誌面作りの参考とさせていただくため、アンケートのご協力をお願い致します。

https://reg18.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=pdqc-mardsj-9e6cf24709de56ecfd34a43a19d5de47

今月の表紙
十八親和銀行 佐世保本店ビル 懐霄館
十八親和アートギャラリー特別寄稿

4 **懐かしい情景を探して**
「匂い」は覚えている

6 **特集**
JAPAN BASE

14 **九州企業のサステナビリティ**
株式会社 アイ・リンクホールディングス　代表取締役　石島 久司 氏
PINCH HITTER JAPAN 株式会社　代表取締役　吉岡 拓哉 氏
西部道路 株式会社　代表取締役　本岡 眞 氏

26 **海外駐在員事務所が伝えるグローバルの今**
シンガポール

29 **お城巡り**
近畿編

33 **FFG Victory Road**
福岡中央銀行　バスケットボールコーチ　中村 洋二

36 **長崎だより**
知らなかった山暮らし

42 **地域とつながるFFG連携プロジェクト**
～型破りが世界を変える～
「長崎学生ビジネスプランコンテスト2024」を開催しました

44 **九州の星**
第18回 エコノミクス甲子園全国大会
長崎県立佐世保北高等学校　優勝
大久保 優樹 氏・田代 豊 氏

バックナンバーのお知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。

特　集

JAPAN BASE

ラグビーがもっと愛される街へ
福岡のラグビーの聖地に誕生した『JAPAN（ジャパン） BASE（ベース）』

2023年6月6日、日本ラグビーの強化拠点、アジアのラグビー普及拠点、そして福岡のラグビーの普及・育成につながる『JAPAN BASE』が、福岡市に誕生しました。

この施設の誕生に至るまでの経緯、どのような活用が期待されるのか、お話を伺いました。

聞き手：FFGブルーグルーパーズ（福岡銀行ラグビー部）部長　林（はやし）　秀之（ひでゆき）

リポビタンD
JAPAN BASE
JAPAN BASE

―この『JAPAN BASE』の誕生には、久木元会長、荒木会長が非常に尽力されたとお伺いしています。どのような経緯があったのでしょうか。

荒木英二会長（以下、荒木会長） このグラウンドは、もともとは福岡市が所有する「さわやかスポーツ広場」です。かつてコカ・コーラウエストジャパン株式会社（現・コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社）の元社長であり、福岡県ラグビーフットボール協会前々会長でもあった末吉紀雄（すえよしのりお）氏が、地域スポーツに根差した施設にするとのコンセプトのもと、同社ラグビー部での使用の他、地域の小学生から大人までラグビーの練習・試合会場として、市民にも広く開放していました。

久木元孝行会長（以下、久木元会長） ところがコカ・コーラ社のラグビー部が2021年4月末で廃部。グラウンドは福岡市の所有ですが、クラブハウスなどをどうするのか検討が続いていました。私にも相談があり、そこでかつて福岡を拠点にしていた株式会社サニックスのラグビー部（2022年5月末廃部）に所属し、この施設を利用したことがあるラグビー日本HC（ヘッドコーチ）だったジェイミー・ジョセフ氏やラグビー日本代表の強化委員長を務めた藤井雄一郎（ふじいゆういちろう）氏に意見を求めました。そうすると「福岡空港から近く、福岡はアジア各国とも近い。こんなに利便性の良いところは他にない」と、両氏から同じ意見をいただきました。

―しかし、ラグビー施設としての存続が危うく、署名活動もされたとお伺いしています。

久木元会長 実はすぐ隣が4面のサッカー場で、コカ・コーラ社が土地を福岡市に返還してしまうとサッカー場になることが予想されました。しかし、署名活動などを通して、ラグビー場としての存続を

KYUSHU RUGBY FOOTBALL UNION

九州ラグビーフットボール協会　会長　久木元（くきもと）孝行（たかゆき）

■学生時代のポジション：センター
■宮崎県出身 1953年生まれ
■延岡高校出身

1976年3月　明治大学　卒業
1976年4月　九州電力 株式会社　入社
2004年7月　株式会社 九電工　入社
2015年6月　株式会社 キューコーリース　代表取締役社長（現任）

■キューコーリース取引店
福岡銀行 本店営業部　十八親和銀行 福岡営業部
熊本銀行 福岡営業部　福岡中央銀行 本店営業部

求める声が大きくなると同時に、サッカー場として再整備するにはかなりの資金が必要と分かり、このまま残すことが有力になったという経緯があります。

荒木会長　署名活動は福岡県ラグビーフットボール協会が中心となって行いました。結果、22,411名の署名があっという間に集まり、私も驚いたほどです。それだけに、このグラウンドが福岡のラグビー界全体にとっていかに重要な存在であるかを改めて感じました。

久木元会長　この2万を超える署名とともに、「この施設をどうしても残してほしい」との強い思いを九州協会・福岡県協会が日本ラグビーフットボール協会に伝え、この『JAPAN BASE』が誕生したのです。

―存続の背景には、「ラグビー王国」福岡としての歴史もあったかと思います。

久木元会長　福岡は、ラグビー日本代表としてワールドカップで活躍した五郎丸歩（ごろうまるあゆむ）選手、福岡堅樹（ふくおかけんき）選手など、名だたる選手を生み出しています。また高校ラグビーは強豪校も多く、歴史的にラグビーが盛んです。それだけに、この『JAPAN BASE』の存在は、福岡のみならず九州全体にとっても大きなものがあります。『JAPAN BASE』のようにラグビーに特化したトレーニングや合宿まで対応できる施設というのは、日本ではここだけだと思います。

この施設の誕生にあたり、ご協力を賜った福岡市ならびに福岡県の関係者の方々のご尽力、また周辺地域の方々のご理解に深く感謝しています。

―この『JAPAN BASE』の施設としての魅力はどこにあるのでしょうか。

FUKUOKA RUGBY FOOTBALL UNION

福岡県ラグビーフットボール協会　会長　荒木（あらき）英二（えいじ）

■福岡県出身 1958年生まれ

1981年3月　西南学院大学　卒業
1981年4月　株式会社 福岡銀行　入行
2011年4月　株式会社 福岡銀行　執行役員本店営業部長
2017年4月　株式会社 福岡銀行　取締役専務執行役員
2019年4月　株式会社 十八銀行（現:十八親和銀行）　副頭取
2022年6月　株式会社 福岡中央銀行　取締役頭取（現任）

久木元会長

久木元会長　天然芝の2面のグラウンド、そのグラウンドに面したコミュニティセンターは各種レセプションやミーティングに対応できます。また、グラウンドとは別にトレーニング専用施設もあります。クラブハウスは体格が大きなラグビー選手にも対応する長さ210㎝のベッドを設置した宿泊施設です。中でも選手からの評価が高いのが選手のパフォーマンスに直結する栄養面にも優れた食事の提供です。合宿や練習で利用した選手たちからは、「とてもおいしい」という評価もいただいています。

荒木会長　第2グラウンドは、地域の小・中学生を中心としたラグビースクールや、高校・大学、クラブチームなどに幅広く開放しています。国内外のトップチームが練習に利用する第1グラウンドのすぐ横で、子どもたちが練習できるという環境が素晴らしく、これもまた他にはない魅力だと思います。

―アジアをはじめ世界各国のチームとの交流や日本代表の合宿も始まっていますね。

荒木会長　2023年9月には7人制ラグビー形式での「アジア・オセアニア ラグビー交流フェスタ」、同じく9月に初の国際試合として女子日本代表と女子フィジー代表によるテストマッチも開催されました。

久木元会長　日本代表合宿も始まっています。2023年10月には7人制男子、2024年5月には15人制女子、6月に15人制男子の合宿が行われました。今後はもっと活用が増えてくると思います。この施設の一つ目の柱が、日本代表を中心としたトップアスリートのハイパフォーマンスの強化。併せて栄養サポートやトレーニングを含めた情報分析・戦略構築などのスポーツサイエンス（研究開発）を進め、世界水準の指導者、レフリーの育成にも活用したいと考えています。もう一つの柱が、市民利用を中心としたラグビーの普及事業です。子どもたちがラグビーに親しめる環境であることが、最大の魅力ではないでしょうか。

5

3 1

4 2

―ラグビーは15人制男女や7人制男女などさまざまなカテゴリーがありますね。

久木元会長　ラグビーは、「多様性」を感じさせるスポーツです。15人制というのはチームスポーツの中で最多。ポジションごとに役割があり、体格の大きい選手、逆に小さな選手であっても一緒に分業しながら戦うスポーツという魅力があり、ラグビーをすることでチームワーク、そして社会性を養うことができると思います。その証拠にラグビー経験者というのは、社会人として活躍している印象があります。また、15人制、7人制でも男女、U19、小・中学校、高校においても男女ともにチームがあり、性別に関係なく、さらにはどの年代においても楽しむことができることが魅力です。

荒木会長

荒木会長　北九州市で7人制女子ラグビー「北洋建設 presents Nanairo CUP北九州」が毎年開催され、女子ラグビーにも注目が集まっています。実はワールドカップでのラグビー日本代表の活躍をきっかけに、福岡では小・中学生、そして女子の間でもラグビーが盛んになっています。

―私は福岡銀行ラグビー部の部長を務めていますが、福岡、九州の社会人ラグビーがもっと盛んになってほしいと感じています。

久木元会長　大学で関東や関西に行ったとしても、就職は地元に帰りたいと思う人は多い。そういう意味では地元の社会人ラグビーチームが受け皿となり、彼らが福岡や九州に戻りやすい環境を整えることは今後の大きな課題ではないかと思っています。

荒木会長　残念なことにコカ・コーラやサニックスのチームが廃部となり、福岡、九州の社会人チームは減少傾向にありました。しかし、2019年に福岡県久留米市に女子チームの「ナナイロプリズム福岡」が、2022年には福岡県うきは市に男子チームの「ルリーロ福岡」が新しく誕生しました。

10

8

6

9

7

1.2.2022年度高校日本代表アイルランド遠征／**3.**現役時代の久木元会長（1974年学生選手権準決勝 明治大学vs慶応大学）／**4.**JAPAN BASE開所式／**5.**対談風景／**6.**トレーニングジムを見学／**7.**代表選手の名前が記載されたプレートを見学／**8.**ダイニングルームで記念撮影／**9.**スポーツ栄養士が考えたバラエティー豊富なメニュー／**10.**練習試合を見学　※写真提供（**1.2.4**）：@JRFU

「ナナイロプリズム福岡」はNanairo CUPなどで好成績を残していますし、「ルリーロ福岡」はトップリーグであるリーグワンでの活躍が期待されていて、両チームとも今後が楽しみなチームです。

久木元会長　『JAPAN BASE』が誕生し、練習や合宿、試合ができる環境が整ったことで、福岡、そして九州の皆さんのラグビーへの興味・関心がもっと広がるのではないでしょうか。何よりも子どもたちがラグビーに触れる環境が増えることで、次世代を担う選手たちが、ここからたくさん生まれると思います。そのためにも、『JAPAN BASE』を今後どのように活用していくのか、私たちもさらに尽力し、広くアピールしていきたいと思います。

林部長（FFGブルーグルーパーズ）

1.JAPAN BASEの理念／**2.**第1グラウンド／**3.**福岡県産品の展示スペース／**4.**日本代表や地元福岡のラグビーチームジャージ／**5.**コミュニティセンター外観／**6.**クラブハウス外観／**7.**客室／**8.**選手を支える食事（一例）　※写真提供（**2.3.5.6.7.8**）：@JRFU

インタビューを終えて

FFGブルーグルーパーズ　部長　**林 秀之**

日本のみならず、アジア、世界のラグビーもリードできる施設『JAPAN BASE』が、福岡市民に親しまれ、多くのスポーツ施設が集まる福岡市東区香椎浜に誕生しました。ラグビー専用としては国内でも他に類をみない充実した施設となっており、クラブハウスには日本代表として活躍した選手たちの名前、代表ユニフォームがズラリと並んでおり、日本のラグビーの歴史を感じる施設にもなっています。

そしてもう一つの魅力は市民にも開放されたグラウンドでもあることです。地域の人たちが、これまで以上にラグビーを身近に感じ、親しむことで、福岡、そして九州のラグビーがさらに発展することを期待しています。

JAPAN BASE

■所 在 地：福岡市東区香椎浜ふ頭1丁目2-2
■電　　話：092-683-4771
■営 業 日：水曜日～日曜日・祝日
■営業時間：9:00～18:00
（コミュニティセンター開館時間 9:00～17:00）
■利用時間：9:00～21:00
■開　　業：2023年6月6日
■施設所有・運営者：公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会
■展開事業：各カテゴリーの日本代表チーム協会事業・市民利用及び普及育成事業
■敷地面積：約54,000㎡
■主要施設：クラブハウス、コミュニティセンター、グラウンド

日本ラグビーフットボール協会
九州ラグビーフットボール協会
福岡県ラグビーフットボール協会
FFGブルーグルーパーズ

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、
サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業の
サステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

株式会社 アイ・リンク ホールディングス

代表取締役
石島（いしじま） 久司（ひさし） 氏

取引店／福岡銀行 箱崎支店

全体最適でグループ潜在価値を バリューネットワークと戦略的M&Aにより実現する

北関東から九州にかけた物流ネットワーク

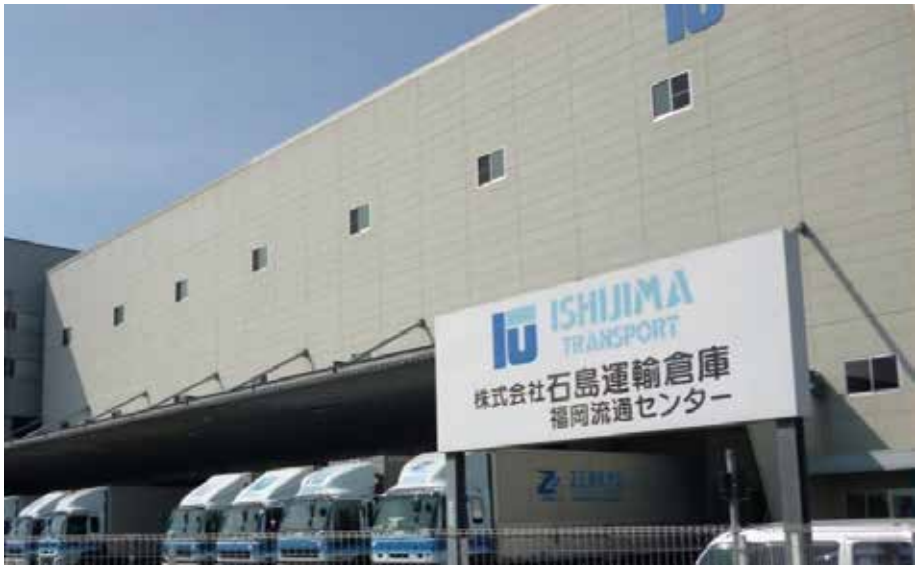
当社は群馬県太田市に本社を置く、総合物流のホールディングカンパニーで、トラック輸送と倉庫業を中心に、国内のグループ企業15社を、海外の11拠点を含め展開しています。グループ合わせて５００台を超える輸送用トラックと、20万平方メートルを超える倉庫を保有し、北関東、中部、関西、九州の各拠点をネットワークで結んでいます。保管、そしてお届けする製品は、食品や機械部品、家電製品など様々ですが、当社は保管や輸送のノウハウと設備、さらには様々な形態の車両を保有しており、幅広い物流ニーズに的確に対応できる体制を整えることで、高品質な総合物流サービスを提供しています。物流サービスのみならず、物流コンサルティング会社や自動車整備工場、人材派遣会社なども傘下に置き、最適な物流システムの提案を行えることが当社の強みです。１９８９年に福岡県内に営業所を開設して

対談中の様子（左から石島社長、福田支店長（福岡銀行））

以降、多くの九州のお取引先様に支えられています。

群馬県内の木材輸送が起源

私の祖父である石島喜八（きはち）が群馬県内で「石島運送店」を創業したのが1933年です。創業当時は木材を中心に運んでいましたが、戦後は石島運送株式会社、株式会社石島運輸倉庫へと組織や名称を変更しつつ、今に至るまで規模を拡大してまいりました。「真心つなぎ人財（ひと）づくり」を経営理念に、そして「チェンジ ＆ チャレンジ」をグループのスローガンに掲げ、この4月に新中期経営計画がスタートしました。事業の拡大にあたっては、これまでM＆Aを積極的に活用してまいりましたが、むやみやたらとエリアを拡大することは考えておらず、エリアを限定し、そのエリア内のシェアを拡大しようというのが当社の戦略です。M＆Aで新たに迎えた会社の効率化と人財づくりに、多くの時間と費用を投資していますが、これからはこれまで以上に人的資本経営に注力してまいります。前年度、グループ全体での年商は124億円を達成しましたが、創業100周年を迎える2033年には年商300億円を目指しています。



石島運輸倉庫西日本の外観

進化する経営理念

当社はもともと、「真心はこび 人づくり」という経営理念を掲げていましたが、M＆Aによって事業領域が拡大していくにあたり、検品・検針会社や、整備工場、人材派遣会社等が新たに加わったため、「はこび」だけでは事業範囲が括れなくなり、「真心はこび」という経営理念ではグループ従業員の意思統一に支障をきたすだろうということで、「真心つなぎ」という言葉に進化させたのです。「真心つなぎ」という言葉には、当社のような物流業界、流通業界の中で、「人から物を、真心を込めてつないでいこう」といった思いを込めています。当社グループの全従業員がその思いを共有することで、これから様々な困難や問題が発生しても、きっと解決していけるものと考えています。当社はグループ従業員を人財と考えており、材料の「材」ではなく財産の「財」、つまりは社会の財産となる、そういった人の集まりを目指していこうという思いで経営理念を刷新しました。

持続可能性への取り組み

当社は以前から、できる限り環境に負荷をかけないよう、保有トラックを順次低排出ガス車に切り替えたり、事務所と倉庫の照明をLED化したりと、とくに環境面を改善するSDGsの取り組みを続けてまいりました。ところが、こうした取り組みがはたしてどの程度世の中に貢献

できているのか、評価できる手段がなかったのです。もしも貢献できているのであれば、当社の取り組みを公開することで、まずは当社の社員が誇りをもって働いてもらい、さらには流通業界のイメージを向上させたいと考えていました。

低排出ガスの同社保有トラック

SSIndexの受検と〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンスの利用

そう考えていたところに福岡銀行箱崎支店から、SSIndexと〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンスの提案を受けたため早速受けてみることにしたのです。SSIndexでは当社のサステナビリティ活動の充分なところと、まだまだ不足しているところが同業他社との比較で理解できたほか、〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンスではこれまで当社が取り組んできたサステナビリティ活動を細かな点まで洗い出したうえで、こうした活動を評価してもらえて、当社がまだ満足できていない部分を改めてKPIとして設定しました。このことは当社が新中期経営計画に掲げた、社内への理解浸透というインナーブランディングと、社外への認知拡大というアウターブランディングの取り組みに即座に役立てられました。

流通業界にかかわる企業として、製品ならびに商品のエンドユーザー様から直接

〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の証、記念楯を贈呈（左から石島社長、福田支店長）

お声をいただくことはほとんどありません。しかし「アイ・リンクグループさんに頼んで良かった」というお声を掛けていただけることを常にイメージしながら、これからもお取引先様の信頼に応え続けたいと考えています。

ISO9001の品質管理のもと幅広い流通加工ニーズに対応

株式会社 アイ・リンクホールディングス

■本社所在地：〒379-2304 群馬県太田市大原町2448-1

■代表電話番号：0277-78-6454

■事 業 内 容：アイ・リンクグループ全体の戦略ブレーン
物流・運送会社様へのプロフェッショナルコンサルティング

■グループ企業：株式会社石島運輸倉庫、株式会社石島運輸倉庫西日本、全京運輸株式会社、
株式会社アイ・リンクサービス、株式会社アイ・ロジアドバンス、株式会社マルトウ、平和自動車工業株式会社、
ギャバンス株式会社、株式会社協栄運輸、大西運輸サービス株式会社、内畑運送株式会社、
株式会社ニッタル運輸、株式会社崎戸運送、株式会社福岡輸送、フレックス物流株式会社

FFG公式YouTubeチャンネルでは同社の石島社長にインタビューしています。こちらもご覧ください。

FFGでは企業のESG／SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式チャンネルはこちら

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 サステナビリティ推進企画グループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2512

サステナビリティに関することは何でもご相談ください

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業のサステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

PINCH HITTER JAPAN 株式会社

（ピンチヒッタージャパン）

代表取締役 吉岡 拓哉（よしおか たくや）氏

取引店／十八親和銀行 大村中央支店

アパレルファッションは流行の期間が短く、世界的に大量に生産され、未使用なものも大量に廃棄されています。加えて在庫を大量に抱えてしまい倒産するケースも少なくありませんでした。

現在では「今あるマーケットを最大化していこう」というテーマを掲げ、法人在庫買取・再流通事業、事業買取・売却事業などを主力事業として運営しています。これまでにも仲介という分野は全国にある当社のネットワークにて販売するシステムを構築しました。

またスポーツ用品のなかでも、スポーツウェアの在庫がネックだという声が多く、アパレル業界に刮目するようになり、アパレルに注力した法人在庫買取事業を開始しています。

法人在庫買取事業開始の背景としては、アパレル業界で発生している大量の廃棄物を減らしたいという観点や世の中の雇用を守りたいという観点がありました。

「モッタイナイ」を世の中から限りなく減らすコトで多くの人を豊かにする

ATARIMAEを疑うコトで新たなコト（価値）を誕生させる

当社は2014年に私が前職で培った営業力を基に、店舗向けLED販売を川口取締役副社長と2名体制でスタートしたのが始まりでした。その後LEDの販売を通じて、スポーツ用品店との出会いもあり、個人向け野球商品をメインとした小売業へ事業転換しました。スポーツ用品店で眠っている在庫を当社が買い取り、ECサイトや

法人在庫買取保管の様子

存在していましたが、スピーディーに資金化を実現出来るように、一度当社が買取をする形でサービスを提供しています。早期売却による資金化を求めた企業様の本質的なニーズに対応出来るサービスだと考えています。

新設本社

倉庫マッチングサービス「カリレル」

当社は「自分たちが使いたいサービスを作ろう」という声から始まったサービスとして、運送会社の空き倉庫（スペース）と小売業などの倉庫を必要としている企業を繋げる倉庫マッチングサービス「カリレル」を開始しました。同事業は当社と販売先の共通の課題であった倉庫不足を解消する為に、運送会社が保有している遊休スペースを事前に登録して、保管スペースが必要な先とマッチングするサービスとしています。こちらのサービスでは希望にあった倉庫情報の提供から、商品の配送手配まで対応しています。

関連会社による事業買取・事業売却事業

私は全国的に休廃業及び解散したい企業が高い水準となっており、国内雇用・国内GDPが失われる可能性があることを懸念していました。関連会社である株式会社R・E BROTHERS（アールイー ブラザーズ）は、中核企業である当社の法人在庫買取事業ビジネスのノウハウを活かして、2022年11月より事業を本格的に開始しています。株式会社R・E BROTHERSでは、ECサイトやYouTubeアカウントなどのインターネット上で行われる事業の売買を中心に取り扱っています。

エンゲージメントを高める

私は若い人が働きたいと地元長崎に残る環境を当社が担いたいと考えており、当社独自のユニークな制度等を採用して時代のニーズに沿った対応をしています。本社は木材を生かしたリラックスできるインテリアを採用し、社員用のカフェも併設するなどして、働きやすい環境を整えています。

また人材育成についても「自力をつける」「仕組みを作る」というテーマをもとに注力しています。具体的には外部講師による営業に関する勉強会やプレゼン大会等を定期的に実施しています。ほかにも私自らが参加する従業員とのランチミーティング等を行うなどしてマネジメント部門の強化も行っています。

ダイバーシティの実現に向けての活動

当社は若い女性が多く在籍しており、役職者としても活躍しています。子育て世代の女性が働きやすい休暇制度を導入したり、福利厚生の

一環として美容手当、ランチ手当などを支給して、女性が活躍出来る環境を提供しています。当社は女性活躍を推進している企業として「WOMAN's VALUE AWARD 特別賞」等を受賞しています。

WOMAN's VALUE AWARD2023 特別賞

アジア太平洋地域急成長企業ランキング・日本急成長企業ランキング

当社は全国の大手リサイクルショップやディスカウントストアから地方の小売店まで幅広いチャネルを設けることにより、豊富な取扱商品と販売実績を誇っています。

2022年には多くの利用企業様の力添えもあり、「アジア太平洋地域急成長企業ランキング」「日本急成長企業ランキング」において受賞することが出来ました。今後も常に変化に対応して、皆様のニーズに合わせたサービス・経営体制を構築し、もったいないを限りなく減らすコトで、多くの人を豊かに、また笑顔にしていけるよう努力してまいります。

【2023年情報】

アジア太平洋地域急成長企業ランキング：
275位／100万社中
卸売部門：5位
日本急成長企業ランキング：64位
成長率：191%（2018年～2021年）

【2022年情報】

アジア太平洋地域急成長企業ランキング：
149位／100万社中
小売部門：5位
日本急成長企業ランキング：38位
成長率：426%（2017年～2020年）

サステナブルファイナンス

十八親和銀行の「〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を利用

2024年3月に取引いただいている十八親和銀行大村中央支店にて、本社新設の資金として、サステナブルファイナンス〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンスを利用いたしました。

このファイナンスは、FFG独自のESG／SDGs評価サービス「Sustainable Scale Index」による評価結果や国際的なインパクト算定ツールを基に対話を重ね、当社の活動が環境・社会・経済に与えるポジティブならびにネガティブな影響を分析・特定し、ネガティブな効果を低減しながらポジティブな効果を増大（KPIを設定）させることで、当社の持続的な成長につながるよう、十八親和銀行が中長期的な伴走支援を行う商品です。作成いただいた評価書は、

十八親和銀行のホームページで確認できますので、ご覧いただければ幸いです。

今回、当社の活動が環境・社会・経済に与える影響を分析・評価していただいた結果を踏まえ、「毎年1,000万点以上の在庫買取取扱商品数を達成する」、「2034年度までに女性役員を1名誕生させる」、「2044年度までに資本提携・M&Aを合計3先行う」などの目標を7つ設定いたしました。これによりさらに成長出来る企業を目指し、社員一丸となって努力を続けてまいりたいと思います。

〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の記念楯を贈呈
（左から吉岡社長、十八親和銀行大村中央支店 森田支店長）

PINCH HITTER JAPAN 株式会社

■本社所在地：〒854-0045 長崎県諫早市新道町71-5

■電 話 番 号：0957-56-9400

■事 業 内 容：法人在庫買取事業

FFG公式YouTubeチャンネルでは当社へインタビューしています。
こちらもご覧ください。

FFGでは企業のESG／SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 サステナビリティ推進企画グループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2512

サステナビリティに
関することは
何でもご相談ください

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業のサステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

西部道路 株式会社

代表取締役
本岡 眞 氏

取引店／十八親和銀行 佐世保本店営業部

人と地域をつなぐ、未来への道づくり

舗装工事をメインとした道路舗装業者

当社は創業者である綿元實（わたもとみのる）が1948年に長崎県佐世保市にて、当時満州地域で自ら経験したアスファルト工事の仕事を続けたいという思いから、道路・舗装工事を中心に事業を開始しました。1981年に日本道路公団からJV（※）による初の大型工事受注をするなどして、事業規模も順調に拡大してきました。現在では道路・舗装工事以外にもアスファルト製品製造販売や産業廃棄物処理業なども行っています。また関連会社5社を含めた6社で西部道路グループを構成しています。関連会社からの資材仕入を行うことにより、アスファルト舗装・コンクリート舗装・特殊舗装を西部道路グループで一貫して行う体制を整えています。

※JV…共同企業体制度（ジョイント・ベンチャー）の略。建設企業が単独で受注及び施工を行う通常の場合とは異なり、複数の建設企業が、一つの建設工事を受注、施工することを目的として形成する事業組織体のこと。

佐世保市福石町の現社屋

昭和40年頃、佐世保市千尽町にあった旧本社にて仕事始め式の際に撮影

環境に配慮したアスファルト製品製造販売

当社は長崎県佐世保市と長崎県対馬市にプラントを保有し、長崎県佐世保市の道路工事を中心として、民間工事・個人向けにアスファルト製品を提供しています。当社が販売するアスファルト合材は、公益財団法人長崎県建設技術センターの承認を受けており、品質の高さを維持しています。また合材プラント施設の排出ガスを第三者へ測定依頼するなどして、環境面に配慮した取り組みを行っています。ほかにも工事等で発生したがれき材等を受け入れて、再生合材・再生路盤材として利用しています。さらに長崎県産の原材料を積極的に使用して、長崎県内で消費を行うことで地産地消にも繋げています。

3R運動・4R宣言を中心とした廃棄物に関する取り組み

当社は業種柄多くの資源を利用する業種であり、かつ廃棄物の排出量も多いことから、建設リサイクル法に基づく分別の徹底など、長年にわたり3R運動(Reduce・Reuse・Recycle)に取り組んでいます。アスファルト合材の使用削減のため、路面を切削した際のアスファルトを使用した再生アスファルト合材・再生路盤材を工事の際に利用しています。積極的な声掛けにより、今では当社が手掛ける現場の80%で使用されています。またこれらのエコ製品は、長崎県のリサイクル製品として認定を受けています。さらに発生した産業廃棄物の数値を官公庁に削減計画とともに届けており、官公庁を通じて公表しています。

当社は事務所内でも、リサイクルボックスを設置するなどして、4R宣言(Refuse・Reduce・Reuse・Recycle)を従業員に周知徹底しています。この取り組みは、長崎県の長崎プラスチック4R宣言事務所としても登録されています。今後は事務所内で、社内文書を従来の紙ベースからデジタル化していくことも検討しています。

長崎プラスチック4R宣言

健康経営推進企業認定取得

「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することとされています。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことで、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織活性化をもたらし、結果的に業績向上に繋がると期待されています。

当社は、今以上に職場環境を良くするために、現在取得している「健康経営推進企業認定」よりハードルの高い「健康経営優良法人認定制度」の取得を目指しています。

健康経営推進企業認定

ダイバーシティ実現に向けた活動

当社では現場の高齢者や女性が活躍しやすいように、労働環境を整備しています。具体的には、エレベーター・自動ドアの事務所設置や現場での女性用休憩場の設置を行っています。このように高齢者が活躍しやすい環境づくりを行うことによって、延長雇用者も多数在籍しています。また今後は女性が更に活躍出来る職場環境づくりの一環として「えるぼし認定」の取得や、多様な人材を確保するために外国籍の労働者採用を検討するなど、ダイバーシティを実現すると同時に、当社の持続可能性を高めるための施策を実施・検討しています。

持続可能なサプライチェーン

当社は事業基盤の強化及び地域経済活性化のためには、取引先や協力会社との提携の維持と拡大が重要であると考えています。提携業者を幅広く増加させることによってサプライチェーンを強固にして、当社の持続可能性を高めていく方針としています。

また当社は設立以来、道路建設業の公共性・社会性を理解し、永年に亘り社会資本整備の担い手としての役割を果たしています。社会インフラに関わる企業の責務として、災害時には人々の生活を守れるような取り組みを率先して行っています。災害などにより社会インフラが毀損した場合、人々の生活を守るためには、当社のサプライチェーンを通常レベルと同じ程度に維持しながら、復旧活動を迅速に行い災害対応にあたる必要があると考えています。

日々の活動としても、防災・減災に配慮した道づくりや、安全第一で環境に配慮した原材料や機械の導入など、多岐にわたる方面から日常生活のサポート拡充に努めています。国土交通省・長崎県などと防災協定を結び、有事の際の応急対策作業を迅速に行える体制づくりを構築しています。

サステナブルファイナンス

十八親和銀行の「〈ＦＦＧ〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を利用

２０２４年３月に取引いただいている十八親和銀行佐世保本店営業部にて、サステナブルファイナンス〈ＦＦＧ〉ポジティブ・インパクト・ファイナンスを利用いたしました。

本ファイナンスは、ＦＦＧ独自のＥＳＧ／ＳＤＧｓ評価サービス「Sustainable Scale Index」による評価結果や国際的なインパクト算定ツールを基に対話を重ね、当社の活動が環境・社会・経済に与えるポジティブならびにネガティブな影響を分析・特定し、ネガティブな効果を低減しながらポジティブな効果を増大（ＫＰＩを設定）させることで、当社の持続的な成長につながるよう、十八親和銀行が中長期的な伴走支援を行う商品です。作成いただいた評価書は、当社ホームページ・十八親和銀行のホームページで確認できますので、ご覧いただければ幸いです。

本岡眞社長

〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンスでは、サステナビリティに関する目標を設定する必要がありましたが、当社では「砕石・砂の地域産資材割合を100%で維持する」、「健康経営優良法人認定制度・くるみん認定・えるぼし認定を取得する」、「外国籍労働者の新規雇用」、「提携業者を増加する」などの9つの目標を設定しました。こちらの目標を社内勉強会を通じて社員一丸となって取り組んでいきたいと考えております。

〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の記念楯を贈呈（左から本岡社長、十八親和銀行佐世保本店営業部 谷口部長）

西部道路 株式会社

■本社所在地：〒857-0854 長崎県佐世保市福石町4-19

■電 話 番 号：0956-32-2188

■事 業 内 容：道路舗装並びに各種舗装工事、一般土木建築並びに各種防水工事、水道及び下水道管工事、各種アスファルト製品の製造及び販売、生コンクリートの製造及び販売、砕石その他建設資材の製造並びに販売、建設機械の修理整備事業、産業廃棄物処理業

FFGでは企業のESG／SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 サステナビリティ推進企画グループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2512

サステナビリティに
関することは
何でもご相談ください

File. 7
IN シンガポール

海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートしています。
今回、シンガポール駐在員事務所の花森所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question 1 現地の状況について教えてください

A シンガポールは、都市国家で小国ながら積極的な外資誘致等により目覚ましい発展を遂げ、2023年の一人当たり名目GDPは約84,730米ドルで日本の約2・5倍となっています（表1）。

また、企業のビジネスのしやすさを指標化した、2024年世界競争力ランキング（スイスのビジネススクール国際経営開発研究所（IMD）の調査）において1位（表2）、アジア駐在員が住みやすい都市ランキング（英国の人材コンサルティング会社（ECAインターナショナル）の調査）において10年連続で1位に選ばれる等、ビジネス環境や住環境において国際的に高い評価を得ています。

加えて、同国のチャンギ空港は140以上の都市に直行便が就航し、ASEAN諸国への移動は概ね3時間以内という地理的な優位性から、多くの企業が同国をASEANの統括拠点としており、JETROの調査によると、シンガポールに拠点がある日系企業へのアンケートに「地域統括機能を有している」と回答した企業は4割超となっています。

（表1）シンガポールの概要

項目	内容	参考
人口	**約604万人（2024年6月時点）**	福岡県の人口は約510万人（2024年9月時点）
面積	**約735平方キロメートル**	対馬の面積は約709平方キロメートル
2023年の一人当たり名目GDP	**約84,730 米ドル（約1,260万円）**	日本は約33,810 米ドル（約502万円）
食料自給率	**約10%**	日本の生産額ベースの食料自給率は約61%
在留日本人	**31,366名（2023年10月時点）**	世界11位
人種構成	**中華系74%、マレー系13.5%、インド系9%**	公用語は英語、中国語、マレー語、タミール語

※為替レートは、2024年10月11日の1米ドル＝148.62円にて算出　出所：JETRO、外務省、IMFなど

（表2）2024年世界競争力ランキング

順位	国名
1位	**シンガポール**
2位	スイス
3位	デンマーク
4位	アイルランド
5位	香港
6位	スウェーデン
7位	UAE
8位	台湾
9位	オランダ
10位	ノルウェー
⋮	⋮
38位	**日本**

出所：スイスの国際経営開発研究所（IMD）

Question 2 現地企業の声を聞かせてください（ARCO MARKETING Pte Ltd 瀧口マネージャー）

A ヤマエグループホールディングス株式会社（以下：ヤマエグループ）の子会社で、現地で食品卸売業を営むARCO MARKETING Pte Ltd（以下：アルコマーケティング）の瀧口さまにお話を伺いました（写真1）。

～現地企業の声～

ヤマエグループは、２０２２年10月に食品卸売業者である現地企業アルコマーケティングの株式を取得し、私は２０２３年４月に現地に赴任しました。

ヤマエグループがシンガポールへの進出を決めた理由は、同国は日本食や日本産品の関心が高く、ビジネス環境が整っており、他国と比べて食品輸入規制が殆どないため、様々な品目の食品の取扱いが可能であることです。また、長期的に経済成長が見込まれる東南アジアの商圏での販路拡大に向けて、交通や物流のハブとしての利便性が高いシンガポールに拠点を置くことで、効率的な営業活動と輸出増加が期待できると判断しました。

アルコマーケティングは、ヤマエグループの創業の地である九州での仕入れ網を活かした豊富な商品ラインナップを強みとして、シンガポールおよび東南アジア諸国において九州産品を積極的にＰＲし、同地域での輸出拡大を目指しています。

（写真1）アルコマーケティング瀧口マネージャー（写真左）と同社冷凍倉庫内にて

Question 3

海外ビジネスを目指すお客さまへメッセージをお願いします

A ２０２３年のシンガポールから日本への観光客数は年間約59万人となり過去最高を更新するなど、日本への関心は高く、現地でも様々な日本産品が受け入れられています。また、整ったビジネス環境、東南アジアへのハブとしての優位性や、駐在員の生活環境の良さなど、シンガポールでのビジネスには多くの魅力があるといえます。

一方で、シンガポールには世界中からモノが集まるため消費者の目が肥えていることや、既に数多くの日本産品が販売されているため競争環境は厳しいことから、入念な市場調査や他社との差別化が必要であると思います。また、シンガポールは海外駐在員にとって最も生活費の高い都市の一つと言われるなど、賃金や家賃などのコストが非常に高いことにも留意が必要です。

シンガポール事務所には、食品などの販路開拓にかかるご相談も多く、市場調査やネットワーク先とのビジネスマッチングのサポートを行っています。また、マレーシアやインドネシアにもネットワーク先を有していますので、ご興味がございましたらお取引店にご相談ください。

Take a Break
所長のちょっとひと息

現地のおすすめや過ごし方をご紹介ください

シンガポールでは２００８年からＦ１初のナイトレースとしてシンガポールＧＰが開催されています。シンガポール中心部の巨大な観覧車や高層ビル群が建ち並ぶマリーナ・エリアに特設されるマリーナベイ市街地コースは、数多くの煌びやかな照明によりコース全体が幻想的な光の道となり、火花を散らしながらフォーミュラカーが走り抜けます。ＧＰ開催期間中には約26万人の観客が訪れるシンガポール屈指のイベントの一つとなっています（写真２）。

（写真2）マリーナベイ市街地コースでのF1開催（スタート前の様子）

お客さま向けセミナー『第11回 海外駐在員が語る「アジアの“今”」』を開催しました!

FFGは、2024年9月18日（水）に西鉄グランドホテルにおいて、お客さま向けのセミナー『第11回 海外駐在員が語る「アジアの“今”」』を開催しました。

本セミナーは、ＦＦＧのアジア7拠点（大連・上海・香港・台北・ホーチミン・バンコク・シンガポール）の海外駐在員事務所長が一同に会し、第一部では１６７名（会場92名、オンライン75名）のお客さまに参加いただき、各所長が現地の最新トピックスや海外進出サポート事例等の講演を行いました。

第二部では、参加企業交流会を開催しました。参加者は、海外駐在員事務所長と現地の話や海外ビジネスの話で盛り上がり、アジアの市場に対する関心の高さが伺えました。また、参加者からは国内にいながら各国の情勢を知ることのできる貴重な時間でした」など、有意義な時間を過ごせたとの声をいただきました。

ＦＦＧは、今後もお客さまの海外ビジネスにおける課題解決や事業拡大のサポートを通じて、お客さまの価値向上、地域経済の発展に貢献します。

セミナー会場の様子

海外企業の九州進出について説明する才田所長

企業交流会の様子

左から台北駐在員事務所 才田所長、シンガポール駐在員事務所 花森所長、香港駐在員事務所 稲冨所長、ホーチミン駐在員事務所 吉永所長、バンコク駐在員事務所 山本所長、上海駐在員事務所 西村所長（現・国際線ターミナル支店長）、大連駐在員事務所 益野所長

お城巡りが趣味の中野支店長が実際に行った日本全国のお城を紹介

Vol.3 近畿編

お城巡り

①

②

③

④

「日本100名城」は公益財団法人 日本城郭協会が2006年に定めた日本の名城100選です。現在は「続日本100名城」も選定されています。

公益財団法人 日本城郭協会 ホームページ

登山道を登ると絶景

続日本100名城 No.162

1 出石城(いずしじょう)・有子山城(ありこやまじょう)

【住所】兵庫県豊岡市出石町【電話】0796-52-4806（但馬國出石観光協会）

2022年6月登城。ちょうどお昼で「出石皿そば」を堪能（写真①）。山の麓に立派な「出石城（写真②）」があるにも関わらず、なぜか山頂にある詰城の「有子山城」もセット登録…。標高321mと甘く見ていたが険しい山道の連続（写真③）。山頂からの景色は雄大（写真④）。

但馬國出石観光協会 ホームページ

私がご案内します！

福岡銀行 添田支店
中野(なかの) 実(みのる) 支店長

Profile 福岡県北九州市出身。1998年福岡銀行入行。門司支店を皮切りに箱崎、戸畑、総務広報部、宮崎、柳川支店で勤務。2017年バンコク駐在員事務所所長。2018年から大牟田、香椎支店の副支店長を務めたのち、2022年10月から現職。趣味で2019年11月から3年7カ月かけて「日本100名城」「続日本100名城」掲載の200城を踏破。公益財団法人 日本城郭協会から登城認定を受ける。

世界文化遺産・国宝

日本100名城 No.59

2 姫路城(ひめじじょう)

【住所】兵庫県姫路市本町68
【電話】079-285-1146
（姫路城管理事務所）

⑤

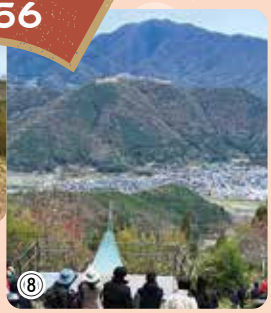
⑥

2019年11月登城、2023年11月再登城。両日とも秋空と天候に恵まれ、別名「白鷺城」と言う名の通り綺麗（写真⑤）。2回目は隣りの「好古園(こうこえん)」で紅葉（写真⑥）、その後、市内散策を行うなど余裕もあったが、外国人観光客の多さに驚かされる。

姫路城ホームページ

日本100名城 No.56

⑦


⑧

日本のマチュピチュ

3 竹田城(たけだじょう)

【住所】兵庫県朝来市和田山町竹田古城山169
【電話】079-674-2120（情報館 天空の城）

2019年11月登城、2023年11月再登城。ちょうどイベント開催中で、城跡をバックにコスプレイヤーを撮影（写真⑦）。2回目では早朝5時から隣りの「立雲峡(りつうんきょう)」に登り、雲海（シーズン10～11月）を見ようと試みるも発生せず（写真⑧）。何日か滞在できる日程で根気強くリベンジしたい。

竹田城ホームページ

日本100名城 No.51

近世城郭の先駆け

4 安土城(あづちじょう)

【住所】滋賀県近江八幡市
安土町下豊浦
【電話】0748-46-6594（安土城受付）

安土城ホームページ

⑨

⑩

⑪

⑫

2019年11月登城、2022年7月再登城。1回目は夕方到着であったため資料館でスタンプ押印と記念撮影（写真⑨）。近江牛を堪能（写真⑩）し、琵琶湖湖畔で朝焼けを眺める（写真⑪）。2回目は早朝から石畳の山道を登って天主閣へ。ここ安土城だけ天守ではなく天主と呼ばれている（写真⑫）。

※本ページの掲載内容は訪問当時のものです。※「日本100名城」は公益財団法人 日本城郭協会が定めた呼称です。

2日でマスター!

～新人からベテランまで、
すぐに使える令和のビジネスマナー～

信頼&好感度アップ！電話応対・ビジネスメール&来客応対・訪問マナーの心得 実践セミナー

環境やコミュニケーションツールの変化に伴い、多様な価値観や年齢層の中で信頼関係やビジネスの成功を築くためには、相手や状況に合わせたビジネスマナーが不可欠であり、同時に時代と共にビジネスマナーも少しずつ変化しています。このセミナーでは、電話応対・ビジネスメールのやり取り、来客応対・訪問時のマナー（オンラインを含む）を様々なシチュエーションで実践し、社内外での対応力・気くばりの気持ちを備えた人材力の向上を目指します。通常のビジネスシーンはもちろん、年末年始の挨拶など、対面セミナーだからこそすぐに活用できる内容の2日間です!

DAY 1 電話応対 / ビジネスメール

- **ビジネスマナーの本質と重要性**
- **ビジネス敬語と言葉づかい** ～心づかいを表現する～
- **信頼感を与える電話応対** ～声のみのコミュニケーションをワンランクアップ～
  ＊基本を総点検（うなずき／相づち）　＊シチュエーション別実践（基本・ご意見／クレーム対応など）
- **信頼されるビジネスメールの基本** ～心づかいを表現する～
  ＊伝わるビジネスメールのコツ　＊心づかいが伝わるプラスαの表現　＊事例別作成

※メール作成演習時に、ご自身のパソコンを使用いただくことも可能です。

2024/12/6（金）
福岡会場 福岡銀行本店4階セミナールーム 福岡市中央区天神2-13-1
10:00～17:00
定員 32名

DAY 2 来客・訪問 / オンラインマナー

- **ビジネスマナーの基本姿勢** ～プロとしての印象管理術～
  ＊表情／挨拶／態度／身だしなみを総点検　＊名刺交換
- **好印象を与える来客応対**
  ＊席次　＊ご案内　＊茶菓応対　＊お見送り
- **好印象を与える訪問マナー** ～スマートな振舞い力を身につける～
  ＊面談中の留意点　＊お茶のいただき方、手土産の渡し方など
- **オンラインマナーの基本と留意点**

2024/12/17（火）
福岡会場 福岡銀行本店4階セミナールーム 福岡市中央区天神2-13-1
13:00～17:30
定員 32名

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

講師プロフィール

Office y Quality 代表 **池松 由紀（イケマツ ユキ）氏**

「人のちからは大きな価値を生む」をモットーに、組織内のコミュニケーションや接遇品質の改善と医療接遇など、人の可能性を引き出し活かす育成研修、職場の人材育成体制構築のコンサルティングをはじめ、大学でキャリア講義を行う。様々な業種および求める人材像と期待する成果に焦点を合わせた、サポートが強み。若手・中堅層の育成、接遇マナー研修を中心に多数登壇、接客応対コンクール審査員の経験も持つ。
前職は大手航空会社グランドスタッフとして約17年勤務。VIPやクレーム対応はじめ責任者としての実務、組織内マネジメントや接客サービス面の品質管理、教育インストラクターとして10年以上従事する。
また、空港立ち上げに携わり、業務手順や組織内人材育成などを一から構築することの大変さと経験以上の役割を求められ、周囲と協力しながら必死で乗り越えた経験は今に生きている。

- 国家資格キャリアコンサルタント
- 特定非営利活動法人日本キャリア開発協会認定 CDA
- 日本マナー・プロトコール協会講師養成講座修了
- ポジティブサイコロジースクール認定 レジリエンストレーナー
- 裏千家茶道講師　茶名 宗由

お申込み方法

1.下記URLか右記の二次元バーコードよりアクセスの上、該当のセミナーのフォームからお申込みください。

https://www.ffgbc.com/seminar/

2.セミナー開催までにお申込み責任者様に「ご案内メール」をお送りします。

上記お申込みが難しい場合は、電子メールでもお受付しております。

電子メール 送信先：**ffgkcj@ffgbc.com**（FFG経営者クラブ事務局）

対象者	若手・中堅社員、ビジネスマナーを学びなおしたい方
定員	各日 32名
受講料	**【2日間セット受講料】** FFG経営者クラブ会員：22,000円（税込）　会員以外：33,000円（税込） **【1日のみ参加の場合の受講料】** FFG経営者クラブ会員：13,200円（税込）　会員以外：16,500円（税込）
受講料の支払方法	セミナー終了後、請求書をお送りいたしますので、指定口座へお振込みください。
お問合せ申込先	株式会社ビジネスコンサルティング 〒810-0001 福岡市中央区天神2-13-1　TEL 092-723-2244　FAX 092-721-9258

ご注意事項

□お申込責任者さまへ電子メールにて受講票をお送りいたします。当日、受付まで必ずご持参いただき、ご提出ください。
□当日は講義開始の30分前より受付を開始いたします。
□キャンセル・ご変更の場合は、必ずFFG経営者クラブ運営事務局（092-723-2241）までご連絡ください。
□体調がすぐれない場合は、ご参加をお控えください。

ご留意事項

※ご記入いただきました情報は、FFG経営者クラブ、福岡銀行、熊本銀行、十八親和銀行、FFGビジネスコンサルティング、Office y Qualityにおいて、本セミナーの円滑な運営のためにのみ利用させていただきます。
※セミナーの録音、録画は固くお断りいたします。
※セミナーへのご参加が不適当と判断した場合には、セミナーへのご参加をお断りする場合がございます。
※DAY1にご参加の方は各自昼食をご用意ください。

福岡中央銀行

「第13回 福中銀元気塾」を開催しました!

2024年9月10日(火)、福岡中央銀行は「ホテルニューオータニ博多」にて、
経済産業省 情報技術利用促進課の河﨑幸徳(かわさきゆきのり)氏をお招きし、
「第13回 福中銀元気塾」を開催しました。

福岡中央銀行が主催する「福中銀元気塾」は、お取引先企業の二代目・三代目の方を中心とした若手経営者、及び事業承継予定者、若手創業者の経営サポート、人的ネットワークの構築を目的としています。

今回開催の1部では、FFG出身である、経済産業省の河﨑幸徳氏より「IT化、デジタル化からDXへ」と題して講演いただきました。参加者からは「DX化を検討したい」という意欲的なコメントが多く寄せられました。

また、2部の懇親会では参加者124名と当行役職員46名の計170名が交流を図り、盛会のうちに終わりました。

1部の講演会で 熱心に聞き入る参加者

経済産業省 河﨑氏による講演の様子

荒木頭取による開会挨拶

2部の懇親会で親睦を深める参加者

■「福中銀元気塾」についてのお問合せ先
福岡中央銀行 ソリューション営業部
TEL:092-751-4532

FFG Victory Road

FFGグループ内で活躍する実業団や社会人チーム、部活動、個人スポーツ活動を紹介するコーナーです

福岡中央銀行

中村洋二

「バスケットボールコーチ」

銀行員の中村洋二さんは毎週土曜日、福岡市南区のバスケットボールチーム「三宅ダンクス」でコーチをしている。バスケの元国体選手でもある中村さんに、バスケへの思いと、地域の子どもたちにスポーツを教える意義について話を伺った。

NAKAMURA Yoji

1985年4月17日生まれ、現在39歳。福岡県朝倉市出身。小学4年時に地元のミニバスケットチームに入団。久留米にある祐誠高等学校へバスケ特待生として進学し、その後、九州産業大学バスケ部で活躍。2008年に福岡中央銀行へ入行し、その傍ら国体選手としても実績を重ねる。甘木支店、久留米支店、大橋支店、本店営業部を経て、現在は鶴田支店で3年目を迎える。現職は支店長代理として、総合営業を担当し、部下の指導・育成にも力を注ぐ。

バスケの経験を成長の糧にしてほしい！

中村さんがコーチを務める小学生女子チーム「三宅ダンクス」の練習風景。撮影は7月の猛暑日だったが、小学校の体育館は冷房がなく、みんな汗だくで練習に励んでいた

甘木で育ちバスケに明け暮れた青春時代

福岡中央銀行の銀行員　中村洋二さんは、毎週土曜日、地域の小学生にバスケットボールを教えている。

中村さんは福岡県朝倉市（甘木）出身。小学4年生の時に、二人の姉が入っていたミニバスケットチームに入団した。「ちょうど『SLAM DUNK』のアニメ放送が始まった時期で、世の中がバスケブームでした」

中学はバスケ部で活躍し、バスケの特待生として祐誠（ゆうせい）高等学校へ進学。甘木から久留米の学校に通うため、朝は6時過ぎに家を出て、夜の9、10時に家に帰る生活を3年間送った。

大学は九州産業大学のバスケ部に進み、4年間の寮生活を送る。

「九州産業大学バスケ部は全国大会出場常連校で練習がきつかったです。同級生は全員、高校時代 全国大会に出場するくらいレベルが高かったので、試合出場までの一年間、練習は人の倍しました。だから少しずつ試合にスタメンとして出られるようになった時は嬉しかったです」

大学4年生の国体出場で卒業後のビジョンが明確に

「大学4年生の時、社会人と一緒に福岡県代表チームとして国体に出場しました。その時、社会人になってもバスケを続け、福岡県代表として国体に出場する道もあることに気付きました」

大学4年時は12月まで試合に出場し、就職活動があまりできなかったという。「福岡中央銀行は10月に後期の採用試験があり、そこで内定を獲得しました」

国体選手時代の中村さん。ポジションはチームの司令塔ポイントガード

福岡中央銀行入行後、甘木支店に配属。「社会人になってからも、福岡市のバスケチームに入り、バスケを続けました。仕事との両立は、入行1～2年目が一番きつかったです。火曜と金曜の夜が練習日で、業後に福岡市内まで行って練習して、深夜に家に戻るという厳しい生活でした。しかし、その努力が実り、国体では最高でチーム5位に入りました」

取材日に練習に来ていた「三宅ダンクス」のメンバーで記念撮影

地域のバスケチームの存続の危機に立ち上がる

入行後、3、4年はバスケと仕事を両立していたが、次第に仕事が忙しくなった。さらに結婚や子育てなど人生のターニングポイントが重なり、徐々にバスケから遠ざかっていった。そんな折、小学生になった娘たちが地域のバスケチーム「三宅ダンクス」に入ることになった。

「はじめは娘たちも楽しく通っていたのですが、コーチが急に辞めることになってしまって…」

20年以上前からある地域のチームだが、次のコーチが見つからず、解散の危機に瀕した。そこで、中村さんは自ら手を挙げてコーチを引き受けた。

「大学で教員資格をとりましたが、教育実習で教える難しさを知っていたので、コーチの道は正直なところ、全く考えていませんでした」

にこやかな表情で指導する中村さん

こうして息を吹き返した小学生のバスケチーム「三宅ダンクス」。現在は男子約20人、女子約20人が小学校の体育館で練習している。中村さんは小学生の女子チームをもう一人のコーチと2人体制で教える。中村さんがコーチを引き継いで早3年。子どもたちの成長が輝いて見える。

「コーチとしては、子どもたちがバスケを楽しく続けてくれたら嬉しいです。そして、全員が上手になってほしい。勝てる試合、勝てない試合に子どもたちは一喜一憂します。全力で喜んだり、悔しがったりすることが成長に繋がります。褒めることはもちろん、競争して、努力は必ず報われることを知ってほしいです」

最後に、中村さんにとってバスケとは何だろうか。

「バスケは人生の全てではありません。しかし、バスケを全力でやっていたからこそ今がある。私の人生はバスケと深く結びついています」

福岡中央銀行 鶴田支店
住所：福岡市南区鶴田2丁目22-5

中村さんを全力応援! 福岡中央銀行 鶴田支店の皆さん。「当店はバスケでいうならスーパーエース揃いのスーパーチームです!」（渡邉支店長、前列右端）

長崎だより

長崎の情報をお届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、のんびり山　代表　森山 誠様より『知らなかった山暮らし』と題し寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!

当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶

ながさき経済web画面

お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所
長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。

知らなかった山暮らし

のんびり山　代表　森山 誠

はじめに

のんびり山代表の森山です。ブルーベリー、生姜、マイヤーレモンを小長井町と佐賀県太良町で農薬を使用せずに栽培しています。

２０１７年４月に新規就農して農家になりました。

２０１８年から妻も仕事を辞めて運営に加わり、小長井町にブルーベリー摘みとりの観光農園をオープン。

ブルーベリーの摘みとり園と直販が経営の軸となっています。

山暮らしに触れる

私は長崎市出身で思案橋まで歩いていけるアパートで育ちました。音楽家を目指して20歳のときに上京して、様々な職を経験しながら音楽活動に励んでいました。2枚のCDをリリースした後に方向性に迷いが生じ、活動休止。その頃に妻の夏美さんと出会い、２００８年に結婚しました。夏美さんは長野県の標高１２００mにある原村という八ヶ岳の麓の出身で、実家はペンションを経営する６人兄弟の長女。

長崎の街と東京の街の暮らししか知らなかった私は夏美さんの実家を訪れ、山間部での暮らしに初めて触れたときに、「こんな暮らしがあったんだ」と自分が経験してきた暮らしとは全く異なることに不思議な気持ちになったことを覚えています。夜になると薪ストーブを焚いて皆で暖をとり、白い息を吐きながら満天の星空を眺める。とても静かで空気と水が冷たくて美味しい。私が知っているネオンが光る街の暮らしとは全く異なった家族の時間がそこには流れていました。

移住を決意

音楽活動を休止してからの東京暮らしは様々なサービス業を経験し、最後はＢＡＲの店長をしながら音楽イベントを企画、主催する日々でした。魅力ある友人達に囲まれて充実していましたが、慌ただしく流されていくような日々に疑問を覚えていくようになっていました。一度きりの人生だったら、もっと自然に囲まれて、自分の時間を大切にできる暮らしをしたい！と考えが膨らんできた頃、２０１１年東日本大震災がおきました。あまりにも大きすぎた出来事に背中を押されるように暮らしを変えるべく移住を決意しました。まずは地元の長崎市にUターンし、農業のアルバイトなどして暮ら

Profile

のんびり山　代表　**森山 誠**

1978年　長崎県長崎市生まれ
1998年　音楽家を目指し上京
2012年　長崎市にUターン
2014年　佐賀県太良町の山間部に移住、ホテルの立ち上げを経験
2017年　新規就農
2018年　ブルーベリー摘みとり園のんびり山を開業
2020年　山の中のゲストハウスオープン

しながら山間部の空き家を探していました。2年が過ぎた頃に友人の紹介で佐賀県太良町の山間部の空き家を紹介してもらい、２０１４年から念願の山間部での暮らしが始まることになりました。この時期は縁あって嬉野温泉の新ホテル立ち上げのチーフとして、妻は保育園に常駐する看護師として勤めていました。

ブルーベリー農園との出会い

山に暮らしながら、山を降りて仕事に向かう。

念願の山暮らしが始まったはずが、ホテル立ち上げの仕事が忙しく、時間も不規則だったために家にいる時間が削られていました。古い空き家はメンテナンスが必要で、手をかけないと快適ではなく、冬は寒いし、梅雨時期にはカビが生えるしで最悪です。思い描いていた暮らしはこんな暮らしではないと悩んだりもしていました。

そんな時に農業のアルバイトをしていた頃の知り合いから連絡がきます。

「ブルーベリーの栽培に興味ない？　小長井町の知り合いが引き継ぎ手を探してるんだけど。」

山で仕事をしながら山で暮らしていきたいと考えていた私は直ぐに農園を見に行きました。

１２００坪ほどのブルーベリー農園の規模に圧倒されましたが、生で食べるブルーベリーの味に感動したこともあって、大家さんを紹介してもらって10分後には「私がやります！」と握手をしていました。

農家になると決意した日です。翌日には会社に辞意を伝えてその半年後に退社しました。

決断してから色々と描いていたことが現実的になっていき、農園の近くにあった古い空き家を借りて改装し、ブルーベリー摘みとカフェを合わせた山間部でも成り立つビジネスプランを組み立てていきました。

役場の農林水産課にも協力してもらって描いていることを徐々に現実にしていきます。

○長崎県内にカフェを併設した観光農園が少ない。

○九州内にはブルーベリー農家が少ないため採れたてのブルーベリーを食べたことがある人が少ない。

○携帯のナビが発達しているので車で移動できる場所で駐車場があれば集客はできる。

○一年に一度の期間限定のイベントなので年々アップデートできる・・など

のんびり山は市場出荷をメインとする農家ではなく、摘みとり園と個人配送が中心。自分たちの強みや弱みを洗い出してブランディングをすることが必要になります。顧客のターゲット設定を細かく考えてECサイトの選定やカフェのメニューや店内のレイアウトなどを変えていく。また、ブルーベリーのオフシーズンには生姜とレモンを栽培していて、各地のマルシェや展示会に出店して

のんびり山改装前

のんびり山店舗

います。出店は労力を使いますが、新たな出会いや発想をもたらしてくれるので、インプットが少ない山の暮らしには貴重な機会と捉えています。これからの小規模農家は優れた生産者であること、優れた経営者であることが重要なポイントになるので、栽培技術もマーケティング手法も並行して学んでいく必要があると考えています。

クラウドファンディングに挑戦

農業経営セミナーに参加したことがキッカケとなり農園内の設備を整える資金集めにクラウドファンディングを行い、117名の方から目標金額を大幅に超える70万円以上の支援をいただくことができました。目標金額を超えられたのは、複数のクラウドファンディングの経験者に話を聞けたのが大きかったと思います。様々なアドバイスにより、細かなターゲット設定と目的が明確に出来ました。

クラウドファンディングはただの資金集めではなく、新製品の市場調査やプロモーションにも利用できる媒体なので、使い方によっては非常に効果的だと思います。その一方で、しっかり準備が出来ていないと目標達成は難しいというデータも出ています。今後は経験者として新規利用者の相談にのっていきたいと思います。他のプロジェクトなどの分析から見えることも沢山あって良い経験になりました。

のんびり山の今後

山間部は過疎化していて年々空き家が増えています。人が住まなくなった空き家は朽ちるのが早く、そのままにしておくと防災の観点からしても良くありません。また、山間部に人が住まなくなると道の草刈りなどが出来なくなり、どんどん荒れていきます。山間部で暮らす人が増えれば、山の景観や耕作放棄地などの問題が改善されていくと思

のんびり山

ブルーベリー

マイヤーレモン

シュガーフリーブルーベリージャム

レモンジャム

います。山で暮らしだして、草刈りなど慣れるまでは大変でしたが、色々と整ってくるとすごく快適で年々心地良くなってきています。水と空気が綺麗で、窓から見える景色や虫の声は季節によって変化していきます。薪ストーブを焚きながら雪を眺めていると自然と共に生きていることを実感できます。

街暮らしとも田舎暮らしとも違う山暮らし。そのキッカケの一つになれればと思い、空き家を改装したゲストハウスをオープンしました。

山から眺める景色や、夜の静けさなど、暮らすように泊まることで、体験してもらえたらと考えています。この空き家の情報は農園に訪れてくれたお客さんから教えてもらいました。農園に人が訪れることによって地域の情報が共有されて、新たな発展に結びついていくことを実感しています。

就農当初は１２００坪だった農地を４０００坪ほどに拡大しました。栽培しているブルーベリー、

生姜、レモンの品質をあげることと、新たな品種、加工品やギフトセットなどを作っていきます。

インスタグラムなどで海外の農園の情報を集めたり、気になる農園とはコンタクトをとったり、積極的に農業研修に参加したりしてインプットを忘れないこと。経営だけではなく接木などの栽培技術を磨いて、20年後にそれが財産になるように日々積み重ねていきたいと考えています。

摘みとり園は毎年来てくれるお客さん達も新鮮な気持ちで楽しんでもらえるように毎年アップデートさせていきます。家族経営でやれるとこまでやろう！が今の目標です。

最後に

移住希望者や農業に興味がある方々に一つの例として山間部での暮らし方と働き方を伝えていきたいなと思っています。

私が原村に初めて訪れてから実際に山間部で暮らし出すまでに約10年の月日が経ちました。きっと人生にはタイミングがあるのだなと思います。

のんびり山が育んでいく山間部での暮らし方が、岐路にたった誰かの背中を押せれば幸せだなと、そんなことを考えながら日々、森の農園で作業しています。

何かと忙しい毎日でも自分たちの理念である「日々の暮らしを楽しむ」を大事に、良い顔して暮らしていきたいです。

▶のんびり山について

HP ▷https://www.nonbiriyama.com/
instagram ▷https://www.instagram.com/nonbiriyama/
Facebook ▷https://www.facebook.com/nonbiriyama/
X ▷https://x.com/nonbiriyama_jp/

HP　instagram　Facebook　X

地域とつながる FFG連携プロジェクト

私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、
観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取組んでいます。
今回は、長崎県の地域経済活性化を目指すビジネスプランコンテストについてご紹介いたします。

～型破りが世界を変える～「長崎学生ビジネスプランコンテスト2024」を開催しました

2024年9月21日、長崎市立図書館にて十八親和銀行およびFFGが主催する「長崎学生ビジネスプランコンテスト2024」を開催しました。このコンテストは、長崎県の地域経済活性化を目指し、県内の学生を対象に大学発ベンチャー企業の発掘、育成支援、チャレンジ精神を養成する場として2018年から実施し、今回で7回目の開催となりました。今回の応募数は過去最多の66組（142名）に達し、激しい予選を勝ち抜いた13組（42名）が本選へ進出。当日は、100名を超える方々が会場に足を運び、学生たちの気持ちの籠ったプレゼンテーションに熱心に耳を傾けました。

本選で発表された各ビジネスプランは、学生たちがそれぞれの視点から地域課題の解決を自由な発想で独自に考えたものです。長崎大学の「Infinite THinKers（インフィニット シンカーズ）」が提案した「放置竹林の循環的活用」は、持続可能な社会の構築を目指した具体的な解決策として評価され、グランプリを獲得しました。このプロジェクトは、「竹害」として社会課題となっている放置竹林を資源として活用し、お皿やカトラリーとして活用した後も廃棄処分せず、竹酢液や竹炭として有効活用することで、地域社会と環境に貢献するというアイデアであり、社会課題の解決に直結したビジネスプランとして高く評価されました。

また、長崎総合科学大学の「そらみみ」は“会話の聞こえにくさ”をARメガネで解決するサービス、

「そらみみ」プレゼンの様子

「チームキャパシタ」プレゼンの様子

「ASRL」プレゼンの様子

佐世保工業高等専門学校の「チームキャパシタ」は世の中の物事に対して「多数派（少数派）」を判別するアプリ、県内高校生混合チームの「ASRI（アスラル）」は中学部活動指導代行サービスを提案し、いずれも準グランプリ（十八親和銀行賞）を獲得しました。他にも9つの協賛企業賞が授与され、受賞者は審査員や協賛企業から、ビジネスプランの実現に向けた具体的なアドバイスなどを受けることができました。

基調講演では、宮崎大学発ベンチャー企業である株式会社Smolt（スモルト）の上野社長が登壇。上野社長は、自らの起業体験をもとに、地域に根ざしたビジネスが持続可能な社会づくりにどのように貢献できるかについて講演を行い、学生たちへエールを送っていただきました。

今後も十八親和銀行では、スタートアップやオープンイノベーションによる新規事業創出にかかる事業を通して、長崎のミライを担う起業家たちを繋ぎ、革新と挑戦の精神を育む架け橋となるよう努力してまいります。

グランプリ「Infinite THinKers」

集合写真

主催者挨拶（十八親和銀行 柿本執行役員）

基調講演（株式会社Smolt 上野社長）

募集チラシ

十八親和銀行 地域振興部 左から浜里・井上
【お問い合わせ】095-828-8150

FFGは地域が抱える課題解決や
地域経済の活性化に取組んでいます

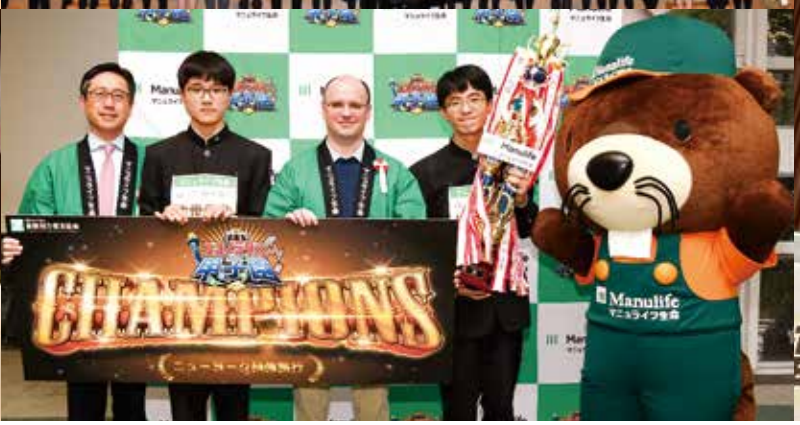
FFG地方創生の
取組事例はこちら

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア
bank baton

地方創生に関するお悩みをご相談ください

●観光振興　●まちづくり
●産業振興　●エネルギー
●教育文化芸術　●ヘルスケア

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 地方創生推進グループ
【お問い合わせ】TEL (092) 723-2254



▲「エコノミクス甲子園」全国大会には地方大会・インターネット大会を勝ち抜いた44校88名が出場。プレゼンテーション発表と筆記試験を経て幅広い形式のクイズに挑む／左下．優勝後に大会スポンサーのマニュライフ生命保険株式会社 専務執行役員CDO 外池宏之氏、取締役代表執行役社長兼CEOブノワ・メスレ氏と一緒に撮影

「エコノミクス甲子園」で佐世保北高校が見事優勝！

「第18回 エコノミクス甲子園 全国大会」
長崎県立佐世保北高等学校 優勝

大久保 優樹
OKUBO YUKI
Age 17
長崎県立佐世保北高等学校
3年生

田代 豊
TASHIRO YUTAKA
Age 17
長崎県立佐世保北高等学校
3年生

「第18回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園 マニュライフ生命カップ 全国大会」が2月に東京で開催され、長崎県立佐世保北高等学校の大久保 優樹さんと田代 豊さんペアが優勝。今回、優勝したお二人にインタビューした。

――「エコノミクス甲子園」優勝おめでとうございます。出場のきっかけは？

大久保 高校2年時の探究学習（※）で地域学習をテーマに研究をしていたら、担当の黒崎先生から「『エコノミクス甲子園』の長崎大会があるから出てみたら？」と声を掛けられたのがきっかけです。友人の田代さんを誘って出場を決めました。

――大会の勉強は大変でしたか？

田代 大会の学習教材などを使いながら、1日1時間、金融経済の勉強を続けました。

――全国大会で優勝した感想をどうぞ。

大久保 勉強したことが結果につながり満足しています。全国から集まった多様で才能ある人たちと交流でき、大変貴重な経験になりました。

田代 優勝できて嬉しかったです。全国からきた仲間たちが、勝ったときには全力で喜び、負けた時には涙を流しながら悔しがる姿に心を揺さぶられ、自分も物事に全力で取り組む人でありたいと思いました。

（※）探究学習……生徒自身が興味や関心を持つテーマを設定し、その問題を解決するために情報を収集・分析し、意見を交換しながら協働して学ぶ学習活動。2022年度から高校で「総合的な探究の時間」として本格的に導入。

「国際経済オリンピック」日本代表団で出場！

「エコノミクス甲子園」の副賞で、二人は「国際経済オリンピック（ＩＥＯ）」の出場権を選択。日本代表団の一員として、7月22日から8月1日まで約2週間にわたって香港で開催されたＩＥＯに出場した。

▲上下.「国際経済オリンピック」出場メンバー記念写真

▲上下.大会は高校生に金融経済の理解を深めてもらうために認定NPO法人金融知力普及協会が毎年開催。地方大会の長崎大会は十八親和銀行が主催

▲十八親和銀行 佐世保本店ビル懐霄館11階展望室にて「国際経済オリンピック」の壮行会を開催。左端から長崎県立佐世保北高等学校　藤原校長、大久保さん、田代さん、大串常務（十八親和銀行）、黒﨑教諭

▲インタビュー後に高校正門前で撮影

――IEO出場で得たことは？

田代　金融経済の知識に加えて、大会は全て英語で行われるので、使える英語力を身につける必要性を感じました。海外の人はコミュニケーションを大切にしていたので、自分ももっと積極的に話しかけて、人との関わりを大切にしようと思いました。

――受験勉強との両立は？

大久保　参加者は大会前から東京大学の青木教授や院生の皆さんにオンライン勉強会で経済学を教えていただきました。IEO出場で夏休みの2週間、受験勉強ができませんでしたが、IEO出場は一生忘れることのない体験になりました。

――IEOも終わり、今は受験勉強真っ只中ですね。今後の進路は？

田代　法学部を目指しています。法律や政治学も一緒に学んで、自分の視野をもっと広げたいです。

大久保　IEOで香港が抱える住宅不足という課題への対応策を問われる課題が出されましたが、経済だけでなく、政治的特性に配慮する必要があり、経済と政治の深い繋がりを認識しました。大学では経済学だけではなく、政治学も学びたいです。

――本日はありがとうございました。お二人の今後の活躍を楽しみにしています！

FFG調査月報 2024年11月号 VOL.167　2024年11月11日　発行／㈱FFGビジネスコンサルティング　福岡市中央区天神2丁目13番1号　TEL 092(723)2244　制作・印刷／久野印刷㈱

◀過去の展示風景

秋季恒例企画

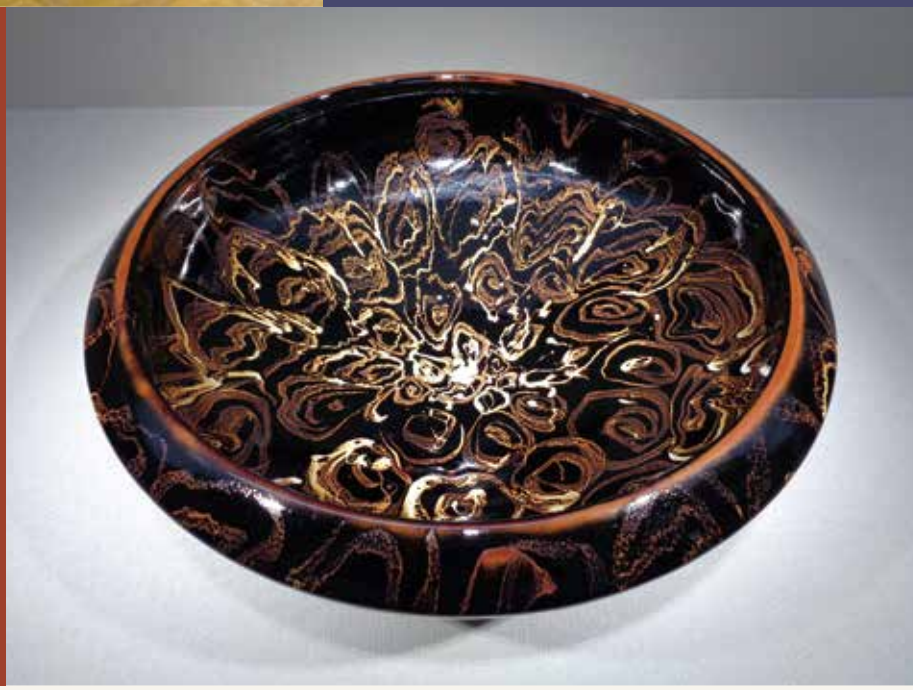
曝涼展
掛軸の世界

2024
11.12（火）→ 12.7（土）

陶磁器小企画

煌めく釉薬

2024
11.12（火）→ 2025
3.1（土）



斉藤 勉作《天目釉鳴門大花器》▶

十八親和アートギャラリーでは、11月12日から季節展示室と絵画展示室1、ホワイエに於いて秋季恒例企画「曝涼展～掛軸の世界」を、陶磁器展示室2に於いて陶磁器小企画「煌めく釉薬」を開催いたします。

秋の恒例企画「曝涼展」では、所蔵品の虫干しを兼ねて掛軸の一般公開を行っています。江戸時代の南画家・椿椿山、長崎県出身の日本画家・小林観爾などの山水画や花鳥画のほか、木庵性瑫、即非如一、良寛和尚による一行書など約40幅をご紹介いたします。

また、陶磁器小企画「煌めく釉薬」では、弊館の多彩な陶磁器コレクションの中から、釉薬の美しさが際立つ、孔雀釉、塩釉、天目釉による未公開作品5点をご紹介いたします。

このほか、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアイコンなど約140点の常設展示も行っております。

※企画展の会期は、次回展の都合により変更する場合があります

斉藤 勉作

さいとう・べんさく：有田の奥川忠右衛門窯で修業。1964年に日展入選以降、日本伝統工芸展、一水会展などで入選を重ねる他、国際陶芸展、フランス国際芸術サロン展など国際展への招待多数。木の葉の模様を映し出した独自技法「染付木の葉流し」など移ろう自然をテーマに作陶。現在、大分県佐伯市に一土窯を構える。日本工芸会正会員。

十八親和アートギャラリー

鑑賞無料

[開館時間] 10：00～16：00（入館は15：30まで）
[休　館　日] 日・月・祝日、年末年始（12/30～1/4）
※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F　TEL.0956-23-4856　西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分